

■しずだい産学連携メールマガジンVol. 44

2011年8月23日発行 【毎月第3火曜日】

⇒静大産学連携広報より、お知らせやイベント情報をお届けします。
<http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/>からもご覧いただけます。

■□

□ I J R C 創立 20 周年特別寄稿 -5-
ー静岡大学イノベーション共同研究センター [IJRC]
(旧：地域共同研究センター)は2011年4月に20周年を迎えましたー

【20周年記念式典】2011年11月25日（金）13：30～[浜松]

「国際競争の中で生き残れますか？」
現在、地震と原発事故により日本の科学・技術乃至哲学が問われている。
静岡大学も地方大学として、知的財産の発展はもとより知的責任を負うことは当然である。
現代は科学技術が発展し、システムはエネルギーが高いもの程、人の直接の制御が困難になり、又それを支えることのできる技術者の育成が課題になっている。
これらに対処するには、やはり地方大学として何を指すかを明確にすること、科学・技術としては中小企業が解り関心をもつものであることが希求される。そして、それには大学教員が何を研究し、どんな成果が期待されるか、平易にわかる研究紹介書が望まれる。
明治時代、夏目漱石が国費で英国に留学し、文化(サイエンスと哲学)に当惑し、ノイローゼになって、その後『我輩は猫である』を執筆したが、国際競争の中では、もはや迷ってははいられない。
教員が毎日希望に燃え成果を待つ姿を見ることは、その膝元で学ぶ学生にとって何を学ぶか以上に大切なことである。
(記：第2代センター長 [平成4～7年度] 藤安 洋)

◆◇◆ 目次 ◆◇◆

1. 制御系組込みシステムアーキテクト養成プログラムの
2011年度後期受講者募集
2. 「平成23年度JSTイノベーションサテライト静岡研究成果報告会」
ご案内
3. 「週末パテントセミナー2011in静岡」のご案内
4. 「イノベーション・ジャパン2011ー大学見本市」に出展します
5. 「静岡大学食品・生物産業創出拠点 第27回研究会」ご案内

※問合先のアドレスは、スパムメール防止のため表記を一部変更しています。メール送信の際は○欄に@を入れてください。

-
1. 制御系組込みシステムアーキテクト養成プログラムの
2011年度後期受講者募集

静岡大学情報学部組込みシステムアーキテクト研究所では、2011年度後期「制御系組込みシステムアーキテクト養成プログラム」受講生を募集いたします。

本プログラムの目的は、個人の経験に依存した組込みシステム開発から脱却し、ソフトウェア工学と制御技術の基本を深く理解し、実践に応用できる技術者（システムアーキテクト）を育成することです。

そのため、制御技術とソフトウェア工学の基礎を固め、さらにシステムの分析、設計から構築までの一連のプロセスを合宿形式で実習する養成プログラムを用意いたしました。合宿形式の実習では、講師や仲間との徹底的な議論と実践を通して学習します。こうした深い議論の経験を経た技術者が、御社の事業の大いなる飛躍につながるものと確信しております。

■後期プログラム受講申し込み締切 2011年9月2日（金）

- 日程
- [1] ソフトウェア工学基礎コース
 - ・2011年10月20日（木）～10月22日（土）
 - ・2011年11月3日（木）～11月5日（土）
 - [2] 制御技術基礎コース
 - ・2011年11月17日（木）～11月19日（土）
 - ・2011年12月1日（木）～12月3日（土）
 - [3] 制御系組込みシステム実践演習コース
 - ・2011年12月15日（木）～12月17日（土）
 - ・2012年1月19日（木）～1月21日（土）
 - ・2012年2月2日（木）～2月4日（土）
 - ・2012年2月16日（木）～2月18日（土）
- * 全日程2泊3日（木・金・土）の合宿形式です。

会場 静岡大学情報学部研修室（浜名湖国際頭脳センタービル内）
【宿泊】商工会議所福利研修センター（株）キャリアック

受講対象者

本プログラムは、チームで取り組む演習を中心とした実践的教育プログラムとなります。そのため、原則として以下の条件を満たせる方を対象としております。

- (1) 3年程度以上の実務経験があり、勤務先企業から受講の許可を受けた方で、全ての日程に参加できる方。
- (2) 次の基礎知識または経験がある方。
 - コンピュータの基本操作（タイピング、テキストエディタの操作、ファイル操作、コマンド操作）
 - 3年程度以上のCあるいはC++言語のプログラミング経験
 - ・C言語の基礎知識（構造体、ポインタなど）
 - ・アルゴリズムの基礎知識（配列操作、検索、ソートなど）
 - 数学I・A、II・B（数列・ベクトル）を学習したことのある方（プログラム中で、ニュートンの運動方程式（ $[質量] \times [加速度] = [力]$ ）をベースにした制御対象のモデル化を紹介しませぬ）

募集人数 15名程度
受講料 無料（宿泊費、昼食代は実費負担となります。）
詳細/申込 <http://architect.inf.shizuoka.ac.jp/>
問合せ 静岡大学情報学部組込みシステムアーキテクト研究所
TEL/FAX 053-478-1577
E-mail architect@inf.shizuoka.ac.jp

2. 「平成23年度 JSTイノベーションサテライト静岡研究成果報告会」
～～～ 長野・山梨・静岡が育むイノベーション ～～～
☆☆☆☆☆☆事例から考える産学共同研究 第3弾 ☆☆☆☆☆

JSTイノベーションサテライト静岡が地域と連携して支援する「育成研究」課題のうち平成22年度終了課題の事例報告を軸として、サテライト
ページ(2)

ト静岡の活動地域である長野・山梨・静岡で育まれた各種研究成果を公開すると共に、実用化に向けた産学共同研究の取り組みや実施上の問題点・解決法など産学官連携の具体的な事例を交えてご紹介する報告会を開催します。

日時 2011年9月2日(金) 13:30~17:00
場所 信州大学 松本キャンパス 旭総合研究棟9階 講義室
主催 JSTイノベーションサテライト静岡
プログラム

■育成研究成果報告

「ディーゼルエンジン用超高圧コモンレールの開発」
／信州大学 教授 杉本 公一

「ペーパースラッジからの高速・高収率エタノール生産技術の開発」
／静岡大学創造科学技術大学院 教授 佐古 猛

■各種研究助成制度の成果報告

<地域ニーズ即応型 成果事例報告>

「ハーモニカ用リードのレーザー調律実用化」
～レーザーによる高精度な自動調律を可能に～
／(株)鈴木楽器製作所 鈴木 一郎

<A-STEP シーズ顕在化タイプ 成果事例報告>

「冷間・温間・熱間複合順送プレス加工技術の開発」
～成功へのカギは、人とのつながりから～
／山梨大学 准教授 吉原 正一郎
(財)長野県テクノ財団 伊那テクノバレー地域センター
コーディネータ 坂上 榮松

<A-STEP 起業検証タイプ 成果事例報告>

「多地点間忠実色共有画像システムの実現を目指して」
～忠実色共有、遠方の患者も布地も目の前に！～
／ノボオ電子株式会社 鈴木 均(※デモ機の展示を行います)

<シーズ発掘試験 成果事例報告>

「結晶材料創成のマテリアル&プロセスイノベーション
---ナノ粒子、薄膜から複合体まで---」
～若手研究者のACTION!“ダンボール試験管立て”からの始まり～
／信州大学 教授 手嶋 勝弥

参加費 無料(但し、交流会参加の方は会費1,500円です)
※会終了後、カジュアルな交流会を1時間程度開催します。

詳細/申込 <http://shizuoka-jst-satellite.jp/>
問合せ (独)科学技術振興機構JSTイノベーションサテライト静岡
TEL 053-412-2511
E-mail h23seika@shizuoka-jst-satellite.jp

3. 「週末パテントセミナー2011in静岡」のご案内

■浜松会場 【静岡大学 佐鳴会館】

第1回 2011年9月9日(金) 13:30~16:30

「その出願ちょっと待った!特許出願前後の注意事項」
～有効な権利取得のための前準備と事後手続き～
神谷 直慈弁理士(静岡大学知的財産本部 特任准教授)

第2回 2011年9月16日(金) 13:30~16:30
「商品の“装いとネーミング”あれこれ」
～意匠法・商標法・不競法・種苗法にまつわる知的財産を考える～
東山 喬彦弁理士

第3回 2011年9月30日(金) 13:30~16:30
「著作権&不競法ピンポイントセミナー」
～気を付けよう！著作物利用、
確かめよう！秘密保持契約と秘密情報管理～
野末 寿一弁護士、弁理士(静岡大学 知財マネージャー)

第4回 2011年10月14日(金) 13:30~16:30
「知財と弁理士の仕事」
～知財のプロフェッショナル「弁理士」の虚像と実像に迫る！～
村松 亮子弁理士

■静岡会場 【静岡県立大学】

第1回 2011年10月7日(金) 13:30~16:30
「著作権&不競法ピンポイントセミナー」
～気を付けよう！著作物利用、
確かめよう！秘密保持契約と秘密情報管理～
野末 寿一弁護士、弁理士(静岡大学 知財マネージャー)

第2回 2011年10月21日(金) 13:30~16:30
「商品の“装いとネーミング”あれこれ」
～意匠法・商標法・不競法・種苗法にまつわる知的財産を考える～
東山 喬彦弁理士

第3回 2011年11月4日(金) 13:30~16:30
「知財と弁理士の仕事」
～知財のプロフェッショナル「弁理士」の虚像と実像に迫る！～
村松 亮子弁理士

第4回 2011年11月25日(金) 13:30~16:30
「その出願ちょっと待った！特許出願前後の注意事項」
～有効な権利取得のための前準備と事後手続き～
神谷 直慈弁理士(静岡大学知的財産本部 特任准教授)

対象 一般、中小企業経営者、知財関係者、教職員、学生など
参加費 無料
主催 日本弁理士会東海支部、東海 i N E T
協力 国立大学法人静岡大学、静岡県公立大学法人静岡県立大学
詳細/申込 http://www.jpaa-tokai.jp/topics/detail_200_0_1.html
問合せ先 日本弁理士会東海支部
TEL 052-211-3110 E-mail info-tokai@jpaa.or.jp

4. 「イノベーション・ジャパン2011-大学見本市」に出展します
～併催：平成23年度産学官連携推進会議～

ポスター展示日：2011年9月21日(水)～9月22日(木)
会場：東京国際フォーラム

<新技術発表会>

○「ステレオカメラを用いて遠距離で高精度に3次元座標を計測」
工学部 橋本岳 准教授
9/21(水) 12:15~12:30

- 「『硬さ』と『柔らかさ』を非接触非破壊で測定する計測器」
工学部 犬塚博 教授
9/21(水) 12:00~12:15
- 「がんの早期発見・治療・QOLを革新する新規医用材料開発」
創造科学技術大学院 山下光司 特任教授
9/22(木) 15:45~16:00
- 「キッチン由来産業糖質基材を活用した新食品・新素材の開発」
農学部 尾形慎 特任助教
9/21(水) 16:05~16:20

<会場展示>

- 「超臨界流体を用いる炭素繊維強化プラスチックのリサイクル」
工学部 岡島いづみ 助教
- 「カプセル型分子素材を用いた有害イオンの新除去技術」
機器分析センター 近藤満 准教授
- 「ナノオーダの座標計測が可能な超高感度タッチトリガープローブ」
工学部 大岩孝彰 教授
- 「非接触回転によりクリーンな送液が可能なベアリングレスポンプ」
工学部 朝間淳一 准教授
- 「植物病害に有効な放射菌を用いた農業資材の開発」
農学部 徳山真治 准教授
- 「キッチン由来産業糖質基材を活用した新食品・新素材の開発」
農学部 尾形慎 特任助教

詳細/申込 <http://www.innovation-japan.jp/>
問合先 静岡大学知的財産本部 TEL 053-478-1718、053-478-1710
E-mail invjp11@cj.r.shizuoka.ac.jp

5. 「静岡大学食品・生物産業創出拠点 第27回研究会」ご案内
—新規食品製造技術と植物工場の可能性—

日時 2011年9月30日(金) 13:30~19:00
場所 東海軒会館
主催 静岡大学食品・生物産業創出拠点
共催 しみず新事業創出研究会、駿河湾地域新事業推進研究会
後援 財団法人 しずおか産業創造機構

内容 <講演>

- ①「三遠南信の農業と植物工場への期待」13:35~14:45
豊橋技術科学大学先端農業・バイオリサーチセンター
統括研究部門 特任教授 三枝 正彦 氏
- ②「植物工場の可能性と限界」14:45~15:00
農林水産省 植物工場 実証・展示・研修事業
千葉大学拠点リーダー 千葉大学 准教授 丸尾 達 氏

<企業プレゼン>

- ①(株) 静岡アグリビジネス研究所 16:15~16:45
『極少量培地栽培によるおいしい静大トマトの生産・販売』
- ②日清紡ホールディングス(株) 16:45~17:15
『植物工場の取り組みについて』

<懇親会>17:20~19:00

研究会参加費 会員・共催/後援団体会員及び学生…無料
会員外…1,000円
懇親会費 会員(学内・学外共) 1名2,000円
会員外 1名4,000円

問合先 静岡大学食品・生物産業創出拠点 事務局
〒422-8529 静岡市駿河区大谷 8 3 6
E-mail: oshirao@ipc.shizuoka.ac.jp

《 静大ラボ紹介 -29- 》

教育学部 学校教育講座 講師 塩田真吾 研究室
<http://shingos.blog.ocn.ne.jp/>

最近では、企業が小学校や中学校に出向き、CSR活動として授業を通じた地域貢献を行うことも珍しくなくなりました。そうした中、地域企業と連携した実践的な教育方法の研究や教材開発を行うのが教育学部 学校教育講座の塩田真吾研究室です。

企業が学校で授業を行い、生徒に実社会とのつながりを正しく理解してもらうには教育方法の工夫が必要です。

塩田研究室では地域企業の経営者や技術者等をゲスト講師として学校にお招きし、産学連携授業としてキャリア教育や環境教育を行い、同時に企業の事業活動も正しく理解してもらうための授業づくりとして『社会とつながる』授業デザインを研究しています。

また、塩田先生は静大教育学部を中心としたNPO「静岡ラーニングラボ」も立ち上げ、地元Jリーグチームとの協働事業や、地域の中小企業と連携した実践的な教育教材の開発において産学連携活動にも取り組んでいます。

少子高齢化の折、教員のあり方や教育学部の役割にも少しずつ変化が求められるはずですが、教育という切り口で静岡大学と地域企業とが協働する産学連携も大いに期待できるのではないのでしょうか。

【研究分野】教育工学、教育方法学

【研究キーワード】産学連携、授業デザイン、ICT

(記：インキュベーションマネージャー 鈴木俊充)

《 みんなのコラム -43- 》

【イノベティブな人材の育成】

皆さんも記憶にあると思いますが、かつて、安部内閣が2025年を目指して策定した長期戦略方針「イノベーション25」では、「イノベーションとは、技術の革新にとどまらず、これまでとは全く違った新たな考え方、仕組みを取り入れて、新たな価値を生み出し、社会に大きな変化を起こすこと」とし、そのためには、「従来の発想、仕組みの延長線上での取組では不十分であるとともに、基盤となる人の能力が最大限に発揮できる環境づくりが最も大切である」としました。そして、イノベーション政策の基本には人材の育成があり、「既存の枠、常識にとらわれない、多くの価値観から生まれる高い志を持つ多様な背景の若者たちが切磋琢磨する場として開かれた大学こそが人材育成には極めて重要」だと述べています。

人文学部はイノベティブな人材育成を目指して、平成16年4月に制定した「静岡大学人文学部学術憲章」に基づき、人文学部が自由な知的活動を展開する知の共同体として、次代を担う人材が育つ学びの場であることを教育目標に掲げ、教育、研究、国際交流、地域・社会連携の活動をより発展させ、学部の教育研究活動の改善に努めてきました。また、産学・地域連携・国際交流の部内拠点として「地域社会文化ネットワークセンター」、「アジア研究センター」を設置して、理系との融合も含めた学際的共同研究に取り組んできています。

イノベーションは技術革新、経営革新、事業革新など「～革新」とい

う日本語がよくあてられますが、人文学部はそうした社会変革を生み出すような、あたらしさにチャレンジする多くの人材を輩出できればと考えています。

(記：人文学部長 佐藤 誠二)

《 編集後記 》

今月1日、文部科学省、経済産業省、農林水産省の公募による「地域イノベーション戦略推進地域」の選定結果が発表されました。

静岡大学が提案機関の1つとして関わった「浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーション」は、国際競争力強化地域（海外からもヒト・モノ・カネを惹きつける強力なポテンシャルを持った地域）に選定されました。

この採択を受けて、浜松・東三河地域イノベーション戦略推進協議会は、産学官金が縦横の関係で結び付く水平連携型（ネットワーク型）の産業構造を構築し、最先端の光・電子技術を基盤として、「ライフフォトニクスイノベーション」を展開し、「輸送機器用次世代技術産業」「健康医療産業」「光エネルギー産業」「新農業」の新産業4分野の基幹産業化を図ることにより、より良いQOLを志向する安全・安心・快適で持続的に成長可能な社会の実現を目指し、活動していきます。

静岡大学イノベーション共同研究センターと知的財産本部は、強みである“地域に根差した知の貢献”を、この事業を通して推進していくよう努めていきます。

* - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - *

◆メールマガジンに関するお問合せ・配信先変更・担当者変更・配信中止のご連絡は、sangakukoho5@cjr.shizuoka.ac.jp までお願いします。（↑送付の際は〇欄に@を入れてください。）

◆本メールマガジンの商業用の転載はお断りいたします。

発 | 行 | 者 |

国立大学法人静岡大学イノベーション共同研究センター（IJRC）

編集：原典子

編集責任者：木村雅和

〒432-8561 静岡県浜松市中区城北3-5-1

TEL 053-478-1414

URL <http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/>

* - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - *

Copyright(c)2008-2011 Innovation and Joint Research Center, Shizuoka University. All rights reserved